



# 音楽運動



日本音楽協会 〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町3丁目10-15 富士ビル505号室 発行人 松本敏之  
TEL 03-3221-1821 FAX 03-6369-3057 URL <http://nichionkyou.org> Email [nichion@yomogi.or.jp](mailto:nichion@yomogi.or.jp)

## 会員外の仲間も迎え、22人

### 日音協セミナーと若い会員の交流会

日音協は、2月21日から23日まで、東京都小平市の学園坂スタジアムで、日音協セミナーを開催し、13人が参加しました。

また、同じ日程同じ会場で、若い会員の交流会を開催し、8人が参加しました。22日夜のミニコンサートにはこのほかに1人が参加しました。いずれも参加者数には、事務局と会員外の方を含みます。

21日は、前泊のための懇親交流会だけ。22日午前中は、講師の港大尋さんの講演を受けました。22日午後と23日午前は、日音協セミナー、若い会員の交流会、それぞれのカリキュラム。22日夜は、ミニコンサートとして、14グループまたは個人が演奏しました。23日午後は、成果発表と講師の講評。

そして閉会式で参加者全員が感想を話して終了となりました。ここで話された感想のうち、3人の感想を要約してご紹介します。

#### ■休符をうまく使うこと

甲斐文史さん(セミナー・青森) 港さんの話からリズムも突き



参加者一同 パチリ

詰めれば休符をうまく使うことだし、それが大事だと思いました。三田地望美さんの「アニメマブルばあちゃん」は最初に東北北ブロックで聞いた時、昨日、今日と進化しているのがすごいです。望美さんには他にもいい曲があるのでぜひ来年も来てほしいし、若い皆さんのそれを一層引き立てる感性や伴奏も今から楽しみです。私も負けずに日音協らしくない歌も含めてどんどん歌っていきます。

## 音楽祭千葉県実行委を発足



実行委員長に連合千葉小谷会長

第53回はたらくものの音楽祭の成功に向け、2月26日、千葉市中央区の連合千葉第2会議室で、第53回はたらくものの音楽祭第1回千葉県実行委員会が開催され、連合千葉と同構成組織、日音協千葉と日音協幹事会から20人が出席しました。

冒頭、連合千葉小谷裕会長は、「6月にはたらくものの音楽祭が、千葉で開催される。中央の主導で、みなさんのご協力をいただきながら、成功させたい」とあいさつしました。

議事では、小谷会長を実行委員長、根本日音協千葉事務局長を事務局長に、そして連合千葉(連合千葉構成組織)と日音協千葉県支部とで第53回はたらくものの音楽祭千葉県実行委員会を結成し、2020年6月13日、14日に千葉市中央区の千葉県教育会館ホールで開催する第53回はたらくものの音楽祭を地元から支えることを確認しました。また、音楽祭のテーマ、千葉県実行委員会企画、プログラム広告協力要請などを議論しました。

(松本敏之)

#### ■生活から生まれ出た音楽

小田祥子さん(セミナー・東京) 成果発表を聴いて、日本中の、そういう思いをもっているけども、もううまく言葉にできていない人たちが、そうそうこれを言いたか

■コールアンドレスポンス 田中珠萌さん(若い会員・東京) 鶏の声など自由にやらせてもらって、力量のあるお兄さんがたにちゃんと形にしてみたい。久しぶりに日音協に参加して、先輩方がリズムの効果なのか、明るく踊るようにうたっていて、よかったと思います。港さんにコールアンドレスポンスの話を聞いて、これまでことばをはっきり表現することに重きを置いてきましたが、余白を活かして、聴いている人から私への矢印を意識することをまなびました。



森組のワークショップ

ったのよって、共感するのではないかと思います。心からこれを言いたいところまでやっているから創りあげられるのでしょう。音楽は既成の曲を一生懸命練習して、うまく楽譜通りに表現するものと思っていました。生活から生まれ出た、密着した音楽は衝撃的で、今までの考えが覆りました。

## 「2020 原発のない福島を！県民大集会」の中止のお知らせ

3月14日に予定されていましたが、「県民大集会」は、新型コロナウイルスの国内発生を踏まえ中止となりました。14日の集会は、「安心・安全」を考慮し、「不特定多数が集まる集会は、現在の情勢を鑑みて中止する決断」に至ったとのこと。準備に携わっていた福島県支部の皆さんや参加予定していた皆さんなど、今後ともよろしくお願いします。(佐藤)

# ケチャとポリリズムとコール&レスポンス 港大尋さんが刺激的な提起

日音協セミナーは参加者13人で、講演に引き続きワークショップが開かれ『ケチャ』や『ポリリズム』のリズム、コール&レスポンスについて講義を受けた。

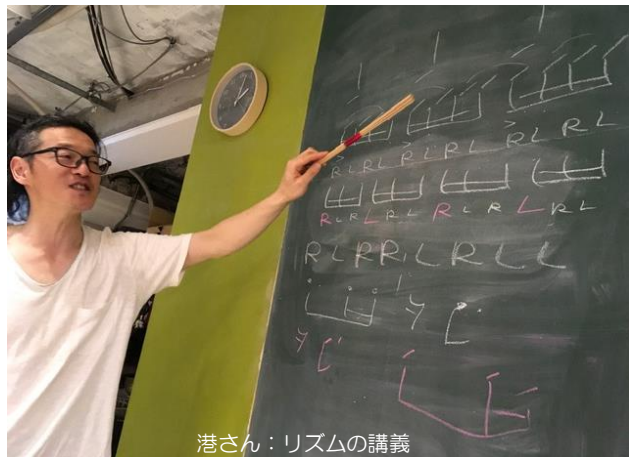
『ケチャ』はバリ島などで歌われている民族音楽で、二手に分かれて八分音符の4連で表の拍と裏の拍を交互に「チャッ・チャッ・チャッ・チャッ」から「チャッ・カ・チャッ・カ」を繰り返して声に出すことやこのリズムを応用して、二手に分かれたところからそれぞれ二手に分かれて4つのグループで「ゲ・ン・パ・ツ・ハ・ン・タ・イ」を一文字ずつ順に回すということに挑戦。

『ポリリズム』では八分音符の4連と3連の掛け合わせ。八分音符の4連は「に・ん・じ・ん」3連は「ご・ぼ・う」4×3で12拍毎ににんじんの「ん」とごぼうの「う」が揃うという計算にもなるが、二手に分かれた一方が「に・ん・じ・ん」もう一方が「ご・ぼ・う」を繰り返す。応用編では4連で「げ・ん・ば・つ」を3連で「や・め・ろ／と・め・ろ／す・ぐ・に／と・め・ろ」などに挑戦。経験したことのないリズムなので戸惑いから始まったものの声に出してみるとなんとなく一体感と気持ちの高まりを感じるところがあった。

『コール&レスポンス』は、歌い手と聞く側の掛け合いだと思っていたが、その条件として呼びかけに応えてもらうには呼びかけに呼んでもらうだけの休符が必要だということ。そのころは、絵画にも余白が必要のように休符を余白ととらえること。なるほど、労組の機関紙を作るときも「余白は必要」と言われたような気がする。(ちょっと違うか。)

その後、東京都支部の森理子さんをリーダーとする森組と新潟県支部の高野直美さんをリーダーとする高野組に別れて、港さんの講義を元に、森組は『安倍の嘘はもう聞き飽きた』、高野組は『大人わらべうた』を作品として仕上げた。

音楽を聴くには誰かが作った音楽をダウンロードして聞くのが現代の主流。でも音楽はもともと誰のものでもなく自然に生まれて共有されてきた時が遙か昔から続いていた。その音楽がいつのころか



港さん：リズムの講義

らか一握りの誰かのものにされ、世の中を支配する道具にもされてきた。クラシック音楽のクラシック（Classic）にはクラス（階級）の意味もあると港さんが話されたが、優雅な宮廷生活の陰には虐げられた民衆の歴史があることを思うと、いまこの瞬間の世の中の動きや労働・生活の不条理を自分たちの手で作品に仕上げて、発信し仲間とつながりあって抗っている日音協の音楽運動に音楽を手にして闘う必然性を感じた。といったら言い過ぎか。

(担当幹事：後藤)

港さんの講演は、時には言葉で、時には演奏で、とても示唆に富むものでした。講演の感想を、このことでしたが、私の印象に残った内容を備忘録的に書いてみたいと思います。一部私の創作が入りこんでいますがご容赦ください。

「クラシック」は「古典」などと訳されるが、「クラス（階級）」の音楽ということであり、作曲家―指揮者―演奏者―聴衆という階層構造に象徴される。楽譜や指揮者の解釈はともすれば上からの指示であり、与える側と与えられる側に分断され、自由からかけ離れていく。一方で、フリージャズから想起されるような、演奏者各自が好き勝手に演奏するような音楽は果たして自由なのか。

こういった音楽のあり方は、社会のあり方とも関連付けられる。前者は権力の横暴に、後者は息苦しい自己責任論に。こういった抑圧や閉塞から抜け出すために、音楽は何ができるのか。

楽譜の束縛から抜け出す手近な方法としての替え歌、異なるリズムがずれながら重なるポリリズム、他者の参加を促すコールアンドレスポンスなど、手法としてのヒントはあり、それぞれが主張しながらもお互いに認め合う、そんなあり方を音楽を通じて表現していくことができるのではないかな。

私の感想を少し。音楽って自己完結した芸術作品ではなくて、あくまで開かれた双方向的な表現なんだと。自分の演奏に頭を抱える日々ですが、少し意識が変わったように思います。ありがとうございます。(秋田：木下知久)



高野組のワークショップ



**若い会員のパフォーマンスにますます期待を**

「2020若い会員の交流会」は、過去最多の8名（非会員1名・事務局1名含む）の参加者で開催されました。今回は、参加者がこの2日間て取り組みたい曲として、オリジナル曲2曲を含む4曲を持ち寄りました。

「春」（詩・曲＝坂口珠乙）は、参加者の田中珠萌さん（東京）の妹・坂口珠乙さんのオリジナル曲。「全米」ならぬ「全姉が泣いた最高傑作」（田中珠萌さん談）であり、「春」が持つ「暖かさ」を優しく描いています。

「私は忘れない」(詩川杉五郎、曲川市野宗彦)は、もちろん日音協ではおなじみの曲ですが、今回は趣向を変えてサンバ風にアレンジしてみました。最後のリフレインで観客を巻き込み、盛り上げました。

「二ニマルばあちゃん」(詩・曲川三田地望美)は、参加者の三田地望美さん(岩手)のオリジナル曲。さまざまな動物と比べながら、元気なおばあちゃんを描いています。朝のニワトリの鳴き声から始まり、昼、夜、そして再び朝へ。1日の時間の経過が木下さん(秋田)のピアノとともに感じられます。

Official 髭男 dsm の「宿命」(詩・曲■藤原聡)は、2019 年『熱闘甲子園』テーマソングで



サルサの舞姫も踊る

千葉音楽祭では、「若い会員の交流会」に参加できなかった仲間も交えて、「若い会員」の力を思う存分に発揮したパフォーマンスにご期待ください。

(担当幹事・竹内崇史)

8人が一堂に会するのは難しかったのですが、6月の干葉音楽祭に向けた練習を兼ねて、5月に大宮で再会することを確認しました。

多くの時間を割けなかったので、引き続き仕上げていきます。

3日目（2月23日）午後の成果発表では、この中の「春」「アニマルばあちゃん」「私は忘れない」の3曲を披露しました。

あり、仕事の関係で参加できなかった青木瀬奈さん（長野）のリクエスト曲。スケジュールの関係で多くの時間を割けなかったので、引き続き仕上げていきます。

## 安倍の嘘はもう聞き飽きた

森、松崎、甲屋、細川、長島、松本



YouTube に UP ぜひご覧ください

## セミナー成果発表

森子一ム

『安倍の嘘はもう聞き飽きた』

<https://youtu.be/zHtSXfoeWIY>

高野チーム

『大人わらべうた』

<https://youtu.be/pdOQ5AAzcX8>

## 若い会員の交流会成果発表

『春』

<https://youtu.be/H8nYepkS3yk>

『アニマルばあちゃん』

<https://youtu.be/BaZL0jcvZ3k>

『私は忘れない』

[https://youtu.be/5lRR\\_Zcl3HM](https://youtu.be/5lRR_Zcl3HM)

## ミニコンサート全員合唱

『ひかりとともに』

[https://youtu.be/SU8\\_4oGyP24](https://youtu.be/SU8_4oGyP24)

『なぞなぞサルサ』

<https://youtu.be/b7bDPf12RWY>

『このうたのように』

<https://youtu.be/ergfnRLNroU>

『裸のタロウさん』

<https://youtu.be/Aghw7FZKyrw>

『タネのうた』

<https://youtu.be/7DS8k-ZYc6E>

# いろいろな方法での発信が必要

## 富山県支部総会

日音協富山県支部第46回定期総会を2月6日(木)午後6時30分より富山市・自治労とやま会館において、代議員(出席11+委任3/14)、役員(5/9)の16人出席で開催しました。

総会は、大門事務局次長の司会で進行し、来賓として連合富山から初めてご出席いただいた浜守事務局長と富山県平和運動センター山崎議長から連帯と激励のご挨拶をいただきました。

また、日音協中央、社民党富山県連合、又市征治社民党党首・前参議院議員からメッセージをいただき読み上げて紹介しました。第52回音楽祭で演奏した『大地はまだ』を歌って紹介し、



恒例となった開会前の、創作曲の演奏

吉澤会長の挨拶で開会しました。

議事は、2019年度の活動報告や2020年度の方針、会計決算報告・監査報告・予算案を一括提案し、質疑討論しました。

46年間活動している「アコディオン研究会」からは「昨年は依頼が増えて保育所など6会場での演奏を行った」という報告、また富山地鉄労組からは「私鉄バスうたごえ大会の開催について」、他に「若い人の拡大」や「いろいろな方法での発信が必要」などの発言がありました。

その後、新年度役員体制も含め議事の全てが承認され、川岸副会長の挨拶で総会を閉会しました。今後引き続き、構成団体、会員、機関紙購読者など県内の皆さんのご協力をお願いします。新年度役員は左記のとおりです。

2020年度役員体制 (磯野友一)

|       |       |
|-------|-------|
| 会長    | 吉澤 正博 |
| 副会長   | 能澤 英樹 |
| 事務局次長 | 川岸 正徳 |
| 事務局長  | 磯野 友一 |
| 大田 信男 | 中田 悟  |
| 屋敷 正人 | 金山 剛  |
| 金 浅   | 湯浅 慎治 |
| 会計監査  | 湯浅 慎治 |

# 人員不足を寸劇や歌、ダンスで表現 私鉄北陸地連うたごえ



若さいっぱいの集会でした

2月13日(木)「第63回私鉄北陸地連うたごえ」が富山市・「ポルファートとやま」において開催されました。以前から開催されていることは知っていましたが、県支部総会でも発言いただき富山での開催ということで取材を兼ねて伺いました。

私鉄北陸地連6単組の青年女性部51名がそれぞれ政治闘争の必要性や職場の人員不足などの問題を寸劇や歌、ダンスで表現され、忙しくてなかなか集まらない状況の中でも想いを伝えようとする若さいっぱいの発表でした。

また引き続き、決意表明や全員合唱など「20春闘勝利総決起集会」も開催されました。

3月に東京で開催される「全国うたごえ」で富山県が代表発表する予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大により中止になったそうです。

(磯野友一)



職場の問題を寸劇で発表

### 【追伸】

富山県支部では、2月11日、「9条をまもり憲法を活かす富山県民の会・第16回定期総会」でも演奏しました。

3月7日には「さようなら原発 3.7 富山集会」が予定されています。

(磯野友一)



## 桜庭さんコンサートに20人

昨年11月30日、“桜庭智英君の退職を祝い励ます会”という長いタイトルのコンサートを開催しました。昨年3月31日の退職からお待たせすること8ヶ月、内輪で飲み会のつもりがなぜか？コンサートに。ならば内輪でちょっと歌うつもりがなんと！県内外から20人も来て下さり、しっかり楽しいコンサートになってしまいました。この日2歳の誕生日を迎えた孫の桜庭詠多（うた）君も参加したものの、目じりを下げたじーじが歌う頃は飽きちゃって退散。詠多君、一生の不覚でした。

「桜を見る会に招かれて飲んだタダザケは大変美味しかったです。」と言う、たかのすびき小野寺会長の「ホウ話」から始まったコンサートは、駆けつけてくれた皆が演奏し、いよいよ桜庭君。さすがの演奏。伝えたい言葉と音がマッチして皆をうならせたのでした。

で、いよいよ乾杯。ここでもまた小野寺会長、ギターレ（ヤマハ製：ウクレレ程の小さなギター）を弾きながら“（ウクレレ漫談の）びろきもどき”の名調子。祝い励ます会の夜は更けていったのでした。（津谷さつき）



桜庭さん、これからも歌い続けてください

＝駆けつけてくれて演奏してくれた方々＝

- ・高沢 陽子（青森）
- ・甲屋 文史（青森）
- ・三田地昇二（岩手）
- ・三田地望美（岩手）若者ユニット
- ・木下 知久（秋田）若者ユニット
- ・下総 大（秋田）おおくま座
- ・下総 邦子（秋田）おおくま座
- ・大嶋 忠男（秋田）おおくま座
- ・熊谷 均（秋田）おおくま座
- ・熊谷アツ子（秋田）おおくま座
- ・後藤 雅裕（秋田）リバーサイドグラス
- ・藤原 真栄（秋田）リバーサイドグラス
- ・後藤裕美子（秋田）
- ・天羽 憲治（東京）

観客として、岩手（豊巻直子、佐藤幸子、続石通子、福士睦）・秋田（佐藤正和）の面々が結集してくれました。（さつき）

# 音楽は私たちの武器です



2月17日（月）18時半より、港区立生涯学習センター“ばるーん”において、定期総会を開催しました。

当日は、新型コロナウイルスについて厚労大臣が「不要不急の外出は避けて」とコメントを出したところで、世間はイベント自粛に向かう動きが…。でも東京都支部は『不特定』でも『多数』でもないので予定通りに開催。出席は15名。体調を崩したり、急用での欠席があった一方、先の会議が早く終わったから、と駆けつけてくれた会員もいました。議長は『ういみん』の松崎さん。

議案書記の行動日誌は3ページに及びます。毎週金曜日の荊葉坂、第1月曜日の防衛省前抗議行動、第1水曜日の東電本社前抗議行動は、定例なので行動日誌には記載していません。それでも、日音協は平和フォーラムに加入していますので、平和フォーラムが参加する『さようなら原発』と『総がかり行動』実行委員会、そして都支部として参加している『辺野古新基地建設を許さない実行委員会（辺野古実）』の提起する行動は、支部として参加を呼びかけています。抗議することがてんこ盛りで、行動もひっきりなし。そして要請の有無にかかわらず、歌っています。狭石支部長は「音楽は私たちの武器です」と表現しました。

集会で出会った人が都支部コンサートに来てくださった、コンサート参加者の中から「一緒に歌いたい。」という人が現れたりします。総会の中でも「もっと日音協の歌を知ってほしい。場をつくって仲間を増やしたい。」との積極的な意見が出されました。

「音楽祭の現状と今後のあり方」については別途集中討議日を設けることとし、経過報告・活動方針ともに承認されました。今年も元気よく歌っていきましょう。総会後の打ち上げは餃子の種類豊富な中華屋さん。店からサービスの一品もあり、美味しく楽しくいただきました。（森理子）



行動がひっきりなしの一年でした



# 水道橋 だより

▼2月28日、活動の拠点にしようと思っている青森市「かくれんぼ」にて、嵯峨パンマスの「グランパ」定期ステージがあった。▼あいにくの小雪模様とコロナウイルスの影響で酔客も流れて来ず、貸し切り状態であった。スキー場やホテル業界など、死活問題となっているようだ。▼グランパの二人は、ベンチャーズをブルース風にアレンジしたり、加山雄三の「旅人よ」「君といつまでも」などを練習したりして、店のママから「いつもと雰囲気が違うといいんじゃない。」とお褒めの言葉。▼甲屋さんも演奏に加わり、持ち歌を何曲も。普段大きな声で練習できないところ、エフェクターを使って、出ないと思われた音域まで歌いあげることができた。ギターを弾くだけで、後ろでアコーディオンが演奏しているように聞こえる優れものである。甲屋さんの今後にも乞うご期待！▼私はまだまだそこまでいってないなあ。(佐藤)



# 歌の力が物語るもの 87

官邸前反原発行動 2/14 (2020年2月) 報告 よここ

【参加者】 清美さん、スーさん、Ricoさん、達哉くん、よここ  
以上5名

雨上がりのぐみ坂。私が定刻より遅れて到着すると、清美さんのオカリナと達哉くんのギターの伴奏で、スーさんが『あたりまえの地球』を歌っていた。次の歌は早速スーさんの自作のソロだ。郷ひろみの曲の替え歌だということだが、まだタイトルはついていない。「安倍とその仲間が、この国をダメにする。死んでも許したくない」というフレーズが印象的だ。

ところで、このところ達哉くんは季節物にこっている。この日たんぽぽ舎で歌う曲を決める際に達哉くんが『二月一日』『節分』『ひなまつり』と次々にリクエストすると、スーさんは「カレンダーじゃないんだから」と言いつつ笑った。達哉くん、いつも暖かい雰囲気を作ってくれてありがとう。

結局たんぽぽ舎で歌う曲は、『節分』『ひなまつり』、スーさんの独唱(前述の郷ひろみの曲の替え歌)、『草たちよ』『原子力発電No!』に決まった。『ひなまつり』における達哉くんのギターはリズムがバッチリ決まっていた。カッコーよかった。たんぽぽ舎に行く途中でRicoさんと合流した。今日は清美さんの、のどかなオカリナと、達哉くんのリズムがカッコー

いいギターで私達の歌を聴いてもらっただ。Ricoさんの「ワッショイ!」(「草たちよ」の中の掛け声)は気分が上がる。私達の後にはたんぽぽ舎の武笠さんの『ドンパン節』の出番だ。私は喜んで踊りに加わった。

今日も色々な人と出会った。山口県の上関原発計画撤回を求める方が山口大集会の案内を配っていた。乱鬼龍さんは「鉱毒事件の谷中村の住民達が、東京に向かって進んで行った抗議の行進が弾圧された『川俣事件』から、今年の2月13日で120年を迎える。」と語ってくれた。辺野古の新基地建設に反対する白杖を携えた男性は『We shall overcome』を一緒に歌ってくれた。乱鬼龍さんが「私は農民の子どもだから土を汚すものは許せない」と言いつつ、清美さんは「私は漁師の子どもだから海

を汚すものは許せない」と言った。スーさんにはスーさんの、RicoさんにはRicoさんの、達哉くんには達哉くんの、今日来られなかった仲間にもそれぞれ思いがあって、歌い、訴え、伝えている。この地球に命を尊ぶあたりまえの暮らしが残り、平和なあたりまえの地球であり続けるために。



## どん行

(128)

飯島貞親

に加え、乗客以上にウイルスに脅かされているのは乗務員ではないだろうか。五輪どころじゃないのは確かだ。

▼新型コロナウイルスのおかげで東京五輪の開催が中止にまで言及されている。感染はまだ広がっている。報道の多くは豪華客船の様子を細かく伝えており、その内容は主に乗客の様子を心配するものがほとんどだが、そこに働く労働者の状況などとはどうなのだろうか。▼乗組員は季節労働者のようなもので労働契約条件はその船が登録している国籍の基準に従うことになっているそう。乗組員の契約は最高9カ月で、週70時間労働、休暇はなく、家族と離れての生活で、しかも通勤があるわけではなく、同じ船内での寝泊まりとなる。乗客の目には見えない乗組員の厳しい勤務事情がある。▼また処理施設はあるとはいっても、の、浴室、トイレ、洗濯、食器洗浄で発生する汚水、汚物は海に捨てられる。地球の環境保全という面において客船は綺麗な観光業ではない。さらに、乗船した後、酔っぱらって海に落ちたり、殺害されたり、盗難やセクハラにあったり、安全の面で問題ありとも言われている。▼豪華さを実現するために何が犠牲にされているか、すこしは報道して欲しいものだ。客船でのただでさえ過酷な労働に